

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育・研究理念および目的を再検証し、時代に適合した理念・目的を設定／明確化する	→理念・目的に関する公式ステートメントの制定、毎年度末の教授会におけるステートメントの定期的検証	A
2. 教育・研究理念および目的を構成員および社会に広く公表する	→理念・目的に関するステートメントのホームページ、大学案内、学部紹介誌、入試要項等への公表	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

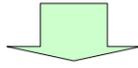
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 社会学部は、「真理はあなたたちを自由にする」（ヨハネによる福音書8章32節）という聖句を基本精神としながら、社会学を核にして現代社会を科学的に探求することを通じて、今日の社会に具体的な貢献をなす人材を育成することをめざしている。 社会学科は、社会学を核としつつ、隣接諸学をも視野に入れた幅広い学習を可能とし、学生各自の個性と関心に応じた複合的な（多領域にわたる）学習環境を整備している。これにより、幅広い学際的な知識に基づいた柔軟でバランスのとれた思考力と優れた問題解決能力をもち、グローバル化した現代社会で活躍できる人材の育成を教育目的としている。 (現状説明) 「社会学リレー講義」や「スタディ・スキル教育」をスタートに、4年間に亘って継続的に施される少人数教育により専門性と幅広い学際的知識の修得だけでなく「卒業論文」指導により実践的応用力も醸成している。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 学内、学外に対して、ウェブや雑誌・広告紙を通して社会学部の理念・目的を周知するよう取り組んでいる。具体的には、学術講演会などイベントでの周知やホームページ、大学案内、学部紹介誌、入試要項等での公表がある。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 毎年度末の教授会で、理念や目的を検証し、適切な理念・目的であるかについて議論している。また、理念・目的は、学部運営の基礎的事項でもあり、学部運営のすべての議論の根底において検討を行っている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	「社会学リレー講義」や「スタディ・スキル教育」は、初年度であるが従来に比べて予想通り効果があった。
小項目0.0.2	
★小項目0.0.3	年度末の教授会や学部懇談会において、活発な議論が尽くされ効果があった。
その他	



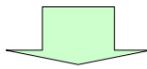
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	「社会学リレー講義」や「スタディ・スキル教育」の初年度の結果を踏まえて、学生との接し方の改良を行う。
小項目0.0.2	学部創立50周年であるためこれを核にした取り組みを従来の取り組みに加えて行う。
★小項目0.0.3	活発な議論が行われるように、定例の教授会で必要に応じて問題的行っていく。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	目的・理念の浸透が年々向上しているのでこれまでの取り組みを生かしこの状況の伸長を図る。
----------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学部の目的・理念の周知が順調に進んでいます。

【学内委員】

○学部の理念・目的について毎年、教授会で議論し、理念・目的の浸透も進んでいるのは大変優れていると思います。
○理念・目的を明確にし、それを社会に広く公表するためにリレー講義などの諸施策を行ったり、教授会などでの議論を重ねている点は大変評価できます。また、その公表に関しても、HPや各種刊行物を使って積極的に行っており、これも評価できます。ただ、これで目標が達成されたとは必ずしも言えないので、次年度以降もさらに積極的にこれらの内容のブラッシュアップに取り組むことが望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし	
-----	--

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
